

行財政改革大綱後期実施計画

実施事項名	観光協会事務局事務の見直し			重点項目番号	7				
現状、問題点、必要性 (なぜやるのか)	【現状】 ・市内には現在観光協会が6団体あり、その内3団体(いがまち観光協会、阿山観光協会、青山観光協会)については、支所産業建設課が事務局を担っている。大山田・島ヶ原は独立しているが、補助金の依存度が高い。伊賀上野観光協会は社団法人として完全独立している。補助金については、観光協会連絡協議会で配分しており、次期体制への対応が始まっている。 【問題点、必要性】 ・現状の6団体の観光協会には、統合及び自立を促す必要がある。 【現状の客観的な説明】 ・事務局事務の対応が各団体で一様でなく、合併協定書等では、公共的団体は原則統合としており、調整を行うとしている。			番号	④				
				担当課(執行する課)	産業振興部商工観光課				
				責任者名(執行責任者)	花岡 穰一				
				担当課電話番号	22-9670				
対象等(なにが、それが)	伊賀市内の観光協会			財政効果額(千円) (いくら削減されるのか、いくら収入増となるのか)	【金額】 8,640千円				
成果(対象がどうなるのか)	統合及び自立が促進される。				【算定根拠】 阿山支所(0.7人×7,700千円) 伊賀支所(0.3人×7,700千円) 青山支所(0.2人×7,700千円) 5,040千円+2,160千円+1,440千円=8,640千円				
実施する内容・目標数値 (対象を成果の状態にするために、何を、いつまでに、どのようにやるのか)	【実施内容】 ・伊賀市観光協会連絡協議会で観光協会の自立運営について、従来の観光協会事業の内容変更も含めて検討を行い、最終的な方針を決定する。 【目標数値】 《最終目標》平成22年度当初より自主運営を開始する。運営状況を見て観光協会の統合についても検討する。 《平成20年度の目標》観光振興事業と地域振興事業を明確にし、観光協会として行うべき事業を選別した上で、行政が事務局を担っている観光協会の自立運営について、伊賀市観光協会連絡協議会で具体的なスケジュールと最終的な方針を決定する。 《平成21年度の目標》20年度に決定したスケジュールのとおり22年度の自主運営開始に向けて条件整備を進める。 【目標の客観的な説明】 ・各観光協会の独自色や自立を促していくこととなる。			特記事項					
目標を達成するための活動指標(全体目標を達成するために個別に実施する項目) (何をどれだけやるのか)	活動指標名	目標値	定義・算定式		行程表(いつまでにやるのか)				
				平成20年度		平成21年度		平成22年度	
				4月	10月	4月	10月	4月	10月
	連絡協議会の開催	20年度4回開催	自立運営の具体的なスケジュールと最終的な方針を決定する	←→					
	連絡協議会の開催	21年度4回開催	進捗状況の管理			←→			
	自主運営への取り組み	平成21年度中	20年度に決定したスケジュールのとおりに進める			←→			
	自主運営開始	平成22年度当初						←→	
統合についての検討		22年度以降					←→		